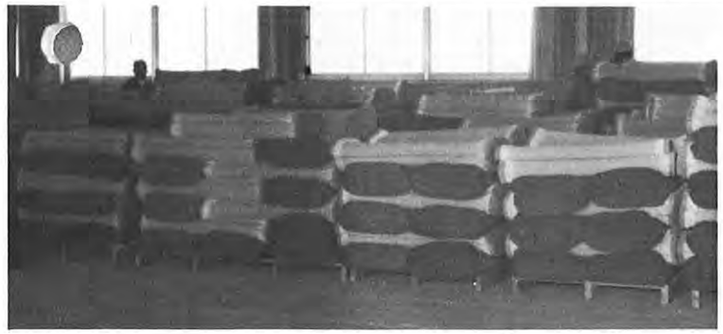
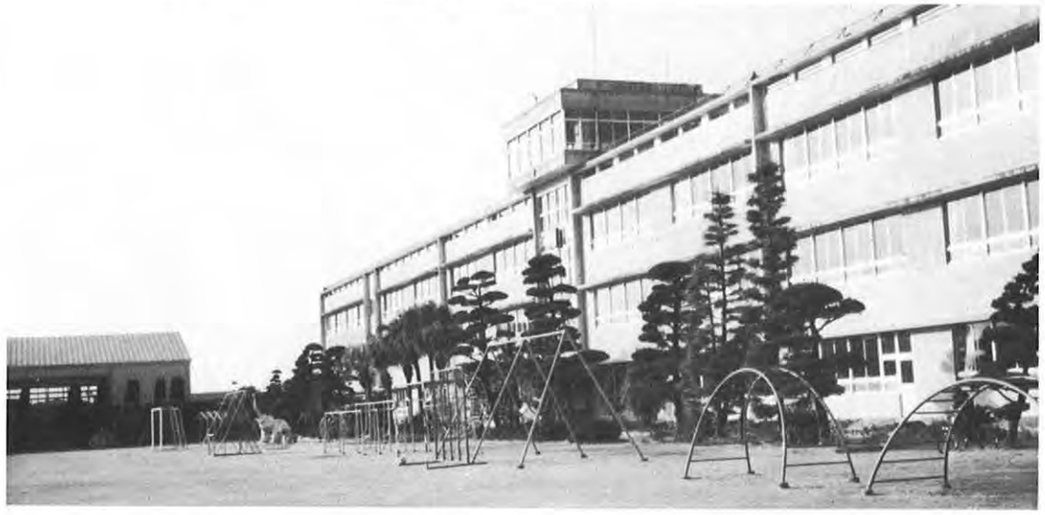
▲近代的な設備をほこる千丁町公民館



▲畳表出荷

▼寒期の中のい草植え

▼千丁小学校



明るい町づくりをめざして

「千丁」は、その地名のとおり、面積が千町（千ヘクタール）有余あるところからその名がつけられ、昭和五十一年九月一日に県下六十六番目に町制を施行しました。

千丁町は、熊本県の南部、八代平野の中央部に位置し、北は鏡町及び宮原町に接し、南は、田園工業都市八代市に接する一望の平坦地域で総面積一一・二三平方キロメートルで東西に長く、南北に狭く、東西の最も長いところは五・五キロメートル、又南北に最も短いところは約一・五キロメートルです。交通は、鹿児島本線が横断し、町の中央部で県道八代鏡宇土線と、共栄千丁停車場線とが交差しています。また、町の最西部を南北に大規模農道が走っています。現在、千六百十五戸、人口七千二百六十八人（昭和五十五年国調）で、その大半は農家で、耕地は数次の干拓事業によって、水田畑、七九一ヘクタールで、水稲、い草栽培を中心とした純農村で、十五の集落から構成されています。

気象は、比較的温暖で初霜は十一月上旬位で農業に適しています。農業用水は球磨川水系に依存し、八代平野土地改良事業及び、団体営土地改良事業で用排水が分離されています。生活用水は、八代郡生活環境事務組合の上水道事業により、全世帯の七八パーセントが利用しています。

町の産業経済は農業が中心でありその中でも、い草栽培が全耕地面積の八四パーセントを占め、その栽培も今より四百七十余年前、「上土城主岩崎主馬氏」が岡山県吉備地方より種苗を取り寄せ領内古閑、渕前の辺りに移植したのが始まりにして、偶々永正十五年の大飢饉にも独り岩崎氏の領内のみが、この副業により米に代わって、い草による収入が大半を占めている。今日では、日本一の熊本表の主産地としての名声とともに、地域農業の主柱となっています。

尚、岩崎主馬忠久公の遺業をたたえて、い草の神様として岩崎神社が千丁町大字太牟田上土に祀られています。

町づくりは、町民主体をモットーに対話と参加を求め、昭和四十九年から毎年移動町政座談会を集落ごとに開催する一方、町政モニター制度（七十五名）を採用し町政に町民の声を反映させ町づくりに大きな役割を果しています。

当町では都市に比べて立ち遅れがある生活環境の整備をはかるため、昭和五十三年度から七ケ年計画で農村総合整備モデル事業に取り組み、着々と生活排水路、道路整備が行われています。又道路整備においては、舗装率八〇パーセントに達し、農業基盤整備事業に於ても、ほぼ九〇パーセントが終わり、球磨川の水の恩恵を受けて農業生産が行われていますが、その難を免かれたとの古い記録があるところから、八代地方における副業として伝わっています。時代の進歩とともに、い草栽培は絶することなく続けられ、昭和四十年代には天日による収穫に頼っていたが、火力（石油）による乾燥方法の導入により、天候に左右されることなく収穫が出来るようになった。それにより製品のむらもなく、統一出来た良質な原草が生産されることにより、一段と良い畳表が出荷出来るようになり、農業収入の難を免かれたとの古い記録があるところから、八代地方における副業として伝わっています。時代の進歩とともに、い草栽培は絶することなく続けられ、昭和四十年代には天日による収穫に頼っていたが、火力（石油）による乾燥方法の導入により、天候に左右されることなく収穫が出来るようになった。それにより製品のむらもなく、統一出来た良質な原草が生産されることにより、一段と良い畳表が出荷出来るようになり、農業収入の中で米に代わって、い草による収入が大半を占めている。今日では、日本一の熊本表の主産地としての名声とともに、地域農業の主柱となっています。

尚、岩崎主馬忠久公の遺業をたたえて、い草の神様として岩崎神社が千丁町大字太牟田上土に祀られています。

町づくりは、町民主体をモットーに対話と参加を求め、昭和四十九年から毎年移動町政座談会を集落ごとに開催する一方、町政モニター制度（七十五名）を採用し町政に町民の声を反映させ町づくりに大きな役割を果しています。

当町では都市に比べて立ち遅れがある生活環境の整備をはかるため、昭和五十三年度から七ケ年計画で農村総合整備モデル事業に取り組み、着々と生活排水路、道路整備が行われています。又道路整備においては、舗装率八〇パーセントに達し、農業基盤整備事業に於ても、ほぼ九〇パーセントが終わり、球磨川の水の恩恵を受けて農業生産が行われていますが、基幹産業であるイ草産業の低迷、加えて第二期水田再編対策の推進とあいまって、地域農業の振興をいかにすべきか問われているところであります。

施設面では、小学校は昭和三十五年に統合され、小学校、中学校一校づつでともに鉄筋で整備されています。保育所三ケ所（うち公立二ケ所）、幼稚園、中央公民館等も整備され、いわゆる教育施設の環境は完備しています。学校開放施設として中学校に夜間照明施設を設置していますが、今後武道館建設の計画もあり、また町民の融和と健康づくりの一端としてスポーツグランド二ケ所、勤労者体育センターを設置し、各種スポーツを始め各種団体の活動が体育施設を中心に中央公民館等でも活発に活用され住民の体力づくりや余暇利用に多いに利用されています。

昨年から、ふるさとづくりの一環として、町民相互の連帯感づくりに資するため、産業文化祭を催していますが、本年は町制施行五周年目でもあり、町ぐるみ総参加の祭として発展させ、町民の健康で豊かな住みよい町づくりに努力しています。